



お江戸舟遊び 瓦版 1095号

水彩都市江東 ころろ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり

お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

砂浜が消える！漁業や防災が直面する危機

日時： 4月4日 19:00~21:00

会場： 地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）

主催： [日本環境ジャーナリストの会-JFEJ-](#)

はじめに：岸上祐子（フリーランス、JFEJ 理事）

今、日本から海岸が消えている。「海岸浸食」といわれるこの現象は、美しい海岸の風景が消え去るだけでなく、海から寄せる波のエネルギーを吸収できずに津波の被害が拡大する可能性も秘めている。海岸浸食の現状から自然の循環や防災を考えたいと、清野先生にお願いした。



講演「砂浜が消える！漁業や防災が直面する危機」

清野聡子（九州大学大学院工学研究院環境社会部門 准教授）

- ・ 海岸の生物、地形と生物、海岸浸食を研究している。
- ・ 何が海岸をこんなに痩せさせたのか？ 人間が戸惑っている間に、事態がどんどん進んでしまう。
- ・ 相模湾の西湘海岸は、外洋に面し海岸が侵食され、テナガエビ群が保護するために並んでいる。海岸を伸びる西湘バイパスは、リニューアル工事を進めている。その様子は[Bing 動画](#)で観ることができる。
- ・ 九十九里浜は、波浪の厳しい外洋に面しているため、千葉県は「九十九里浜浸食対策計画」を制定し、地域に適した①養浜、②ヘッドランド、③離岸堤工事を 30 年かけて進めている。



養浜：海岸に人工的に砂を入れて、砂浜を作り出すこと。

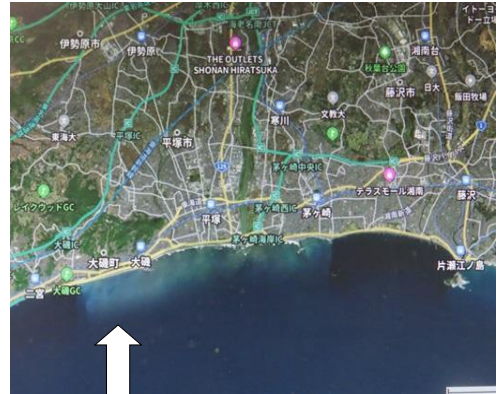


ヘッドランド：コンクリートブロックを用いて、岬間から沿岸方向に流出する砂を制御することで、砂浜の安定を図る。



離岸堤：沖合に、海岸線と平行に消波ブロックを積み上げた構造物のこと。沖合からくる波を弱めて、離岸堤の背後に砂を堆積させ、侵食を防止する。

- ・ 日本の海岸の半分以上は、国土保全や生活や産業発展のために人工海岸化している現状にある。海側にインフラをつくったために、波浪の影響で浸食されやすい。山から川を通して土砂の流出が減り、海岸は浸食されることになる。自然の法則を無視した人間の利益本位のなせる業でもある。
- ・ 江の島のヨットハーバーは、オリンピックのために海岸を埋め立てて造ったが崩壊してきた。
- ・ 七里ガ浜は、元々松林の砂浜だったが、砂が細り、海岸が痩せてきている。
- ・ 湘南海岸、遠浅の海岸だったのに海岸道路をつくり便利になったと思っていたら、浸食がすすみ、インフラの維持が今後とも可能なのが課題で、海岸道路を廃止して内陸側に移設が必要かも？
- ・ なぜこんなにも海岸が痩せてしまったのか？ 近くの漁港に砂が入らないように砂止め堤を造っていることが大きな要因になっている。沿岸の自然の法則を事前に十分把握し、インフラ開発などを進めなければならないと痛感させられる。



- ・ 九十九里浜海岸では右図のような**浜崖浸食**が毎年進み、年間300～500mの速度で沿岸方向に**後退**していると知られている。
- ・ かつては賑わった海水浴場も海浜後退で、砂を入れ続けなくては維持できない所が多くなっている。



九十九里浜海岸ではこのような浜崖が年間300m～500m程度の速度で、沿岸方向に拡大している

海岸法：海岸を保護するために昭和31年に制定された。津波、高潮、波浪等による被害から**海岸保全施設を保護**することが目的だ。しかし、海岸施設などを**人間がケア**するのが良いのか、**自然に任せる**方が良いのかが課題になっている。厳しい、巨大な自然現象には人間は対処できないとの考えも大切となっているのではないかと思います。

バッファゾーン：海の**自然の特性に従った**“ケア”に変えるべしとの考え方がある。砂が移動・堆積して砂浜が拡大・減少を繰り返すのが自然なのだという考え方こそが自然なのだ。

津波対応の地域づくり：3・11対応を従来通りにすると、海岸は大堤防だらけになってしまう！

自然地形変動の摂理を知るべきで、**セットバック方式**も主流になった感がある。

質疑応答： @清野氏の回答

A： 七里ガ浜には別の所の砂を入れているが、抜本的解決策はないのだろうか？

@ 我々は自然海岸を利用尽くしてきた。半分以上の海岸は自然ではなく、もはや術はないのでは。北海道の鵜川では100m以上後退している。**世界的には経済的理由で、移転する方向**になっている。

B： コストを考えると、コンクリート or 砂浜となるが？

@ 東北などはコストを考えると廃棄化しかないと。地方自治体では対処は不可能と思う。

C： 今まで海岸工学では人間の力で何とか出来るとしてきたが、再検討すべきではないか？

@ **自然の力は大きく**、どうすることもできないと理解し始められ、**防災から減災へ**と変化している。

終わりに：

岸上：日本環境ジャーナリストの会は、今までいろいろな課題に提言を行ってきたが、伝えても伝えても世の中は変わらないと嘆いてきた。今回の課題「砂浜が消える」は日本の存在に関わる大問題で、今後とも学びの場をつくっていきたい。最後に、清野さんからひと言を。

清野：海の諸問題の対策では、今のところ、**成功例はない**と言える。現場の実態を調査し、国や自治体に意見を伝え続け、考え続けていきたい。決断のできる国や自治体であって欲しい。

所感：現場に出向き・調査し、地に足の着いた提言を繰り返されている清野氏の熱い迫力ある講演を聞くことができた。現在「**江東 5 区マイナス地域防災**」に注力している身には、身につまされる内容だった。

少子高齢化が進み経済が衰退している**災害大国日本**の課題を、正面から向き合う必要性を痛感させられる。今だけ金だけ自分だけの政治を皆で反省し、再生への道を、**国、都、自治体、住民、社協 NPO 等々の連携・協力**で前進させていかねばならない。

(文責 中瀬)



(江東5区広域避難推進協議会・ハザードマップから)